

平成 28 年度（2016 年度）事業計画書

（はじめに）

2016 年度の公益財団法人鼓童文化財団は、2012 年 4 月に株式会社北前船より経営を独立させて 4 年目となり、公益活動の更なる充実と経営の健全化を両立させ、中長期の事業戦略を描く大切な年になると考えている。

重点分野としては、以下の 3 事業の充実を図る。

「深浦学舎」を活用した社会人向けの研修プログラム「未来の学校」の本格始動と、昨年から開始した地域ビジネス塾を通じた、地域ビジネスの開発と担い手の育成。

佐渡市高齢福祉課と共同で取り組んで来た、認知症予防プログラム「エクサドン」の応用形として、太鼓を通じたメンタルヘルスプログラムの開発。

アース・セレブレーションのリニューアルによる、島民を巻き込んだ、佐渡の新たな観光資源の創造と国際交流の推進。

（基本方針）

公益活動の充実と経営の健全化

（重点分野）

- ・ 深浦学舎の活用による、地域ビジネスの開発と担い手の育成
- ・ メンタルヘルスプログラムの開発
- ・ アース・セレブレーションを通じた、佐渡の新たな観光資源の創造と国際交流の推進

（実施事業）

ア. 人づくり

イ. 地域おこし

ウ. 芸術文化の振興

エ. 国際交流

オ. ファンドレイジング

ア. 人づくり

（研修および体験学習を通じた担い手の育成）

（1）「太鼓芸能集団 鼓童メンバー養成」コース

旧岩首中学校を拠点に、舞台メンバーを養成する研修プログラムの更なる充実をはかるため、太鼓芸能集団 鼓童、株式会社北前船と共にカリキュラムの再構築を行う。

- ・ 一年次 4 月～1 月 約 12 名
- ・ 二年次 2 月～1 月 約 8 名

（2）「地域づくり」コース

「地域づくりコース」試行第 1 期実習生（中村美沙希・赤澤京）が 1 月で実習を修了することから、

兩名との地域での業務を通じた関係を継続すると共に、自立に向けたサポートを継続する。また「地域づくりコース」の試行の成果と課題を検証し、今後の同コースの方向性を検討する。

イ. 地域おこし

(地域資源を利用した地域活性化)

(1) 佐渡太鼓体験交流館（たたこう館）の運営

県内修学旅行生を対象とした太鼓体験は、好評をいただき定着しているが、時期が限定されており、また少子化の影響で今後参加人数の減少が予測されることから、新たな体験プログラムによる収入を生み出す。具体的には、深浦学舎での宿泊とセットにした太鼓体験を提供するほか、今後増加が期待される個人体験による収入増を図る。

また、閑散期に島外での出前ワークショップを開催すると共に、社会人向けの太鼓プログラム等の開発に向け、講師のスキルアップの為の研修の機会を作る。

平成29年3月末には佐渡市の指定管理が終了し、施設の当財団への譲渡が予定されていることから、今後の施設の有効な活用策を検討する。

- ・ 太鼓体験、刺し子教室、伝統料理教室、ミニコンサート、講演ほか

(2) 鼓童 宿根木公演

2016年は春のゴールデンウィークに宿根木公会堂を会場に開催する。

宿根木公会堂が3月で耐震補強工事と内装設備工事を終了することから、施設の魅力をPRした営業を強化する。

(3) 佐渡の地域振興に資する各種団体の事務局運営や活動のサポート

- ・ 佐渡国小木民俗博物館を地域の文化拠点として活性化する事業
民俗学者・宮本常一の構想理念である、人材育成に貢献する地域文化の拠点としての博物館を活性化させる、地域と行政が一体となった取り組み。
- ・ 深浦小学校校舎活用委員会
旧深浦小学校学区8集落の代表により構成され、閉校後の校舎の活用を推進する委員会。
- ・ 小木湊まちなみの輪
佐渡小木湊（小木港と共に発展した地域）の歴史を活かしたまちづくりを促進し、地域活性化に寄与することを目的に活動を行う市民団体。

(4) アースファニチャー事業

EC2002でのフォーラム「佐渡の森は蘇るか？」をきっかけに始まった実践企画「アースファニチャー」。里山の再生と地域経済の活性化、児童・生徒への新たな環境教育への取り組み。

- ・ 緑の少年団によるベンチの製作

(5) 深浦学舎の運営

鼓童グループによる活用と共に、永年の夢である「日本海大学」に繋がる学びの場として活動を活発

化させる。その一つの取り組みとして、コーネル大学（アメリカ・ニューヨーク州）、ifs（伊藤忠ファッションシステム）未来研究所の研究者と協働で開発する、研修プログラム「未来の学校」を年2回（7月、10月）実施する。本事業の普及に向けて、初年度は新潟県内の企業経営者、社会人の参加を募る上で、第四銀行（本社：新潟市）、新潟商工会議所との連携を強化する。

ウ．芸術文化の振興

（伝統文化の調査研究を通じた芸術文化の振興）

（1） 佐渡の文化に関する調査研究及び資料収集

郷土芸能の調査研究と資料収集、鼓童の映像資料、寄贈図書、レコード・CDの整理から始まった本事業は、地域振興に向けた研究と実践への取組みに広がっており、深浦学舎に佐渡に関わる図書資料の閲覧コーナーの整備計画を検討する。

また、調査研究の過程で出会った団体や地域の課題に取り組む活動への参加を通じて、地域の文化活動と地域づくり団体への支援と連携を深めている。

（2） 伝統文化・文化活動への支援

東日本大震災被災地・郷土芸能復興支援活動（Heartbeat Project）

- ・ 岩手県・陸前高田けんか七夕祭り復興の記録
- ・ 岩手県・大船渡綾里（りょうり）地区の五年祭再興への関わり

（3） アウトリーチ活動

鼓童が培って来たノウハウを体現する鼓童名誉団員の活動支援と、新たな創造や普及に繋がる実験的なパフォーマンスやワークショップを通じた活動を進める。また、外部団体、専門家との協働により、そのノウハウの応用、社会貢献に向けた研究活動を行う。

主なもの：

- ・ 鼓童塾（齊藤栄一、藤本吉利、藤本容子、小島千絵子、山口幹文）
- ・ 芸能の宝島公演
- ・ 研修生と島内中学生の交流学校公演

（4） 太鼓と医療介護を融合させたメンタルヘルスプログラムの開発

佐渡市高齢福祉課と進めている認知症予防プログラム「エクサドン」を応用させ、社会的な課題になっているメンタルヘルスをサポートする、太鼓芸能を通じた理学療法、作業療法、言語療法、健康スポーツに融合させた研究と実践を、それぞれの分野の専門家と協働で行う。

エ．国際交流

（国際的な文化交流の場づくりと実践）

（1） 国際芸術祭「アース・セレブレーション」の実施・運営

29回目の開催となる、「アース・セレブレーション2016」は、城山コンサートは行わず、佐渡の島民

を巻き込んだ、全島的な広がりを持った事業への方向転換を図る。

「たいこのこども」というメッセージの元、佐渡、日本、そして地球の未来を考え、行動するフェスティバルを目指す。

海外からは、ベトナムの演奏団体を招聘する。また、佐渡の歴史や自然に触れる体験企画の更なる充実を図るとともに、小木港祭り（8月29日～30日）と開催期間が繋がることから、連携を図った企画の充実に取り組む。

運営面では、事務局機能への佐渡市の関わりを深化させる目的で、総合政策監を司令塔とし、観光振興課に加え、各部署からの参加を得て、行政施策との連動と協力体制を構築する。

開催期間：2016年8月26日（金）～8月28日（日）

- ・ 鼓童村コンサート、ECシアター、ワークショップ、セミナー、佐渡体験プログラム、ハーバーマーケット、FRINGE ほか

（2） 国際交流基金アジアセンターとの共催企画

2015年のアース・セレブレーションへのバリ島からのスアール・アグンの招聘と鼓童のバリ島訪問の成果を踏まえ、2016年はバリ島と佐渡島の地域の芸能を巻き込んだ、交流へと発展させる企画とアース・セレブレーションへのベトナムからの芸能団の招聘を国際交流基金アジアセンターに提案中。

オ. ファンドレイジング （資金調達力の強化）

（1） 企業との関係強化により法人寄付の強化

深浦学舎における企業向け研修プログラム「未来の学校」を開催し、企業からの職員派遣を通して関係づくりを進める。また、企業の社会的責任（CSR）に対して、財団がノウハウを提供し、協働して社会貢献活動を行うことで相互の関係強化を図る。

（2） 寄付のオンライン決済システムの定着化

2014年に導入した、インターネットを利用した決済サービス「PayPal」（ペイパル）による、寄付金収入の増加に向けて、財団ホームページの寄付メニューの整備を行う。

（3） インターネット時代の資金調達手法の導入

- ・ クラウドファンディング（インターネットを通じた不特定多数からの資金調達）
- ・ 古本募金「きしゃぼん」（古本を換金して希望の活動団体に寄付）
- ・ ソーシャルフォース（非営利団体向け顧客管理システム）

（4） 鼓童の会

- ・ 永年賛助会制度の継続的運用